✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧

✧　フィリピン気象天文庁へ専門家を派遣
～気象観測・予報・警報能力向上プロジェクト～

当センターでは、国際協力機構（JICA）から「フィリピン国気象観測・予報・警報能力向上プロジェクト」業務を受託し実施しています。

JICA から、上記業務の途中経過報告として、当センターから派遣している職員が実施した現地研修の様子が紹介されました。

６人の専門家で構成されるベースライン調査チームが、８月４日から９月１３日までPAGASA（フィリピン気象天文庁）やフィリピン各地を訪問し、J-POWプロジェクトの活動に関するベースライン調査を実施しました。JICAの無償資金協力で建設されたレーダーの調査は、山本忠治専門家（技術専門家チーム総括／気象災害啓発）、山口博史専門家（レーダー操作／維持管理）によってアパリ、ギワアン、ビラクで行われました。三橋功治専門家(気象情報／情報通信技術)はPAGASA職員とウェブページや警報などの気象情報に関する会議を持ち、内務自治省、フィリピン湾岸警備隊、放送局などを訪問し、PAGASAからの気象情報の流れを確認しました。気象測器に関しては、松原廣司専門家(地上気象観測、気象測器校正)が調査し、山本忠治専門家と小松志津子専門家（気象災害啓発）はPAGASAの南ルソン管区のカタルマン、ソルソゴン、レガスピ州を訪問し、PAGASAの地方観測所だけではなく州や市レベルの災害リスク調整事務所や学校、ラジオ局を訪問し、啓発活動関連を調査しました。J-POWプロジェクトのチーフアドバイザー佐藤信夫専門家（気象観測、気象行政）も南ルソン出張に同行し、自動観測器（AWS）が設置されている環境や地方の災害リスク調整事務所によって収集された災害データについて調査しました。技術専門家チームは１０月中旬から１２月初旬にかけてPAGASAを再訪予定で各種研修や第１回年次セミナー、JCC（合同調整会議）などを開催する予定です。

９月、J-POWプロジェクトの研修が２人の専門家によって実施されました。平隆介専門家（気象ガイダンス）は、気象観測、予報数値予報や気象ガイダンスの調査を終えた後、９月９日に『MOSガイダンス・イントロダクション』（写真左）のセミナーを開催同日続いて『エクセルを使用した観測データと数値予報格子点値の統計処理』の実地研修(写真中)を行い、気象天文庁の気象部や研究開発研修部などから１６人の職員が参加しました。翌日の９月１０日には、松原廣司専門家によるセミナー『気象観測・測器についてのイントロダクション』（写真右）が開催され、気象部や研究開発研修部、首都圏管区などから１３人が参加しました。研修終了後に実施したアンケートでは、殆どの参加者が研修やセミナーに満足し、次の研修に期待している様子が伺えました。（MOS=Model Output Statisticsの略で、数値予報結果を天気予報に反映させるための統計。格子点値＝大気中や地表などに設定された格子点上の気象要素などの値。）